

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

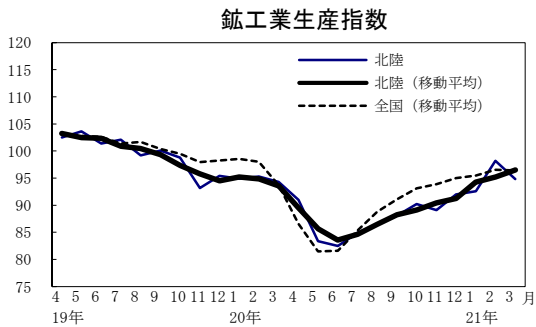
前回からの主要変更点

	前回（令和3年3月）	今回（令和3年6月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	↓
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

1－3月期の鉱工業生産は、生産用機械は半導体製造装置等が増加したこと、電子部品・デバイスは電子部品等が増加したこと等により、前期比5.3%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	15.3	▲3.0	13.9	10.9	11.9	▲10.8
化学	14.0	1.0	▲6.4	▲17.7	14.0	11.2
生産用機械	11.8	4.9	24.2	6.0	8.3	▲11.5
金属製品	8.1	1.8	▲0.3	0.4	1.2	5.5
繊維	6.9	5.0	3.0	1.4	1.9	▲1.3
鉱工業	100.0	4.5	5.3	0.7	6.0	▲3.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1－3月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

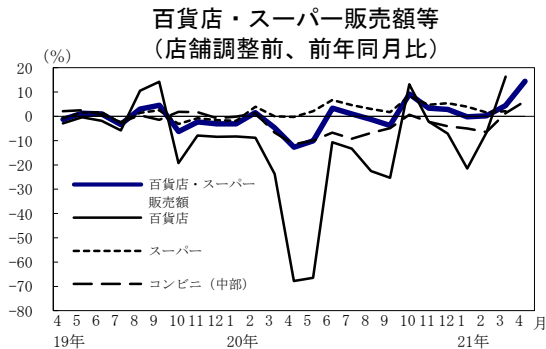
個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

1-3月期は前期比2.3%減となった。月別にみると、1月は前月比3.5%減、2月は同3.3%増、3月は同0.7%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比4.9%増、1-3月期は同1.5%増となり、増加幅が縮小した。月別にみると、1月は前年同月比0.2%減、2月は同0.2%増、3月は同4.5%増となった。



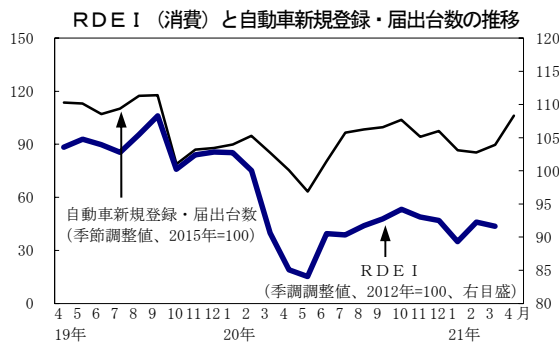
	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDE I (消費*1)	▲2.3	▲3.5	3.3	▲0.7	—
百貨店・スーパー(*2)	1.5	▲0.2	0.2	4.5	14.4
百貨店(*2)	▲4.7	▲21.4	▲6.6	16.4	—
スーパー(*2)	2.7	4.0	1.6	2.2	—
コンビニ(*2)	▲3.3	▲4.9	▲6.4	1.4	6.2
乗用車(*3)	0.4	▲4.6	▲7.7	7.8	40.3
(季節調整値) (*3)	▲11.5	▲11.1	▲1.6	5.1	18.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。
2021年4月は速報値。

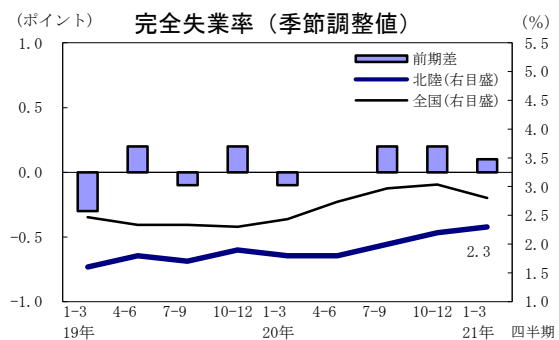
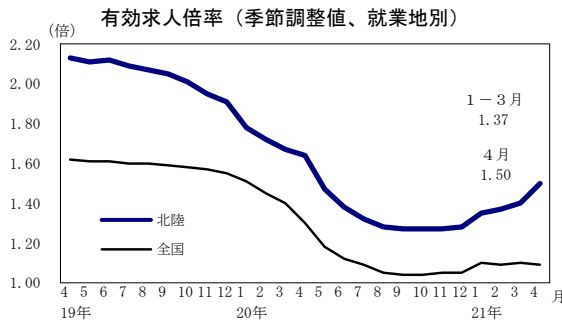
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて算出、季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

7. 北陸

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 月初めは県内外の新型コロナウイルス感染者数が抑えられていたため来客数は回復傾向であり、新生活実需品などの動きも良かった。しかし、下旬頃には県外での緊急事態宣言の発出、県独自の警戒レベルの引上げ、隣県でのまん延防止等重点措置などが出て、感染者数が増加傾向になるにつれて来客数が減少し、販売量も低調になりつつある(その他小売[ショッピングセンター])。
			・ 新型コロナウイルスの感染拡大が地方でも深刻になり、外出自粛の傾向が強い。今まで食品や日用品などの必需品は影響を受けにくかったが、連休を前にして影響が出始めている(百貨店)。
			・ 通信、放送共に契約者数が前年同期比を上回っている。特に放送において新メニューが好評で、契約者数の増加につながっている(通信会社)。
	企業 動向 関連		・ 当社のメイン事業の公共工事はそれなりに発注されており、受注もしているが、歓楽街は相変わらずひっそりしている。全体としては景気は下げ止まりしている(建設業)。
			・ 家庭消費向け中心の市販用分野は引き続き堅調である。外食向けを始めとして苦戦してきた業務用分野だが、テイクアウト需要にはまるなどプラス材料も目立ち始め、業務用分野全体でも前年を上回りそうな勢いである(食料品製造業)。
	雇用 関連		・ 緊急事態宣言により、小売業者は更なる減収が予想され、卸売業を始めとする様々な取引先への影響が大きくなる。行政の支援策に手詰まり感もあり、融資支援メニューも少ない。これまで1年しのいできたが、先が見通せない取引先が増加している(金融業)。
		・ 今月も求人広告の出稿は介護、清掃など一部業種に限られており、メーカーやサービス業などの出稿の動きは鈍い(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント			・ 街中に入出が増えてハローワークの利用者も増えたが、今後、街中への外出制限が進めば、また減ると考える(職業安定所)。 ： 外出を自粛する傾向があるため、客の動きが鈍いと感じる(住宅販売会社)。 × : 当県も飲食店への営業時間短縮の要請が出ている。このところ夜の売上はかなり少ない(一般レストラン)。
先行き	家計 動向 関連		・ 営業時間の短縮要請が終わっても、夜の来客数の回復は余り期待できない。いつまで影響が残るのか想像できない(一般レストラン)。
			・ 県独自の緊急事態宣言の発出で、外出を控える傾向は続きそうである。やや持ち直してきた感じのする衣料品は、これで合い物を飛び越して一気に夏物になりそうで、売上の減少は避けられないとみている(商店街)。
	企業 動向 関連		・ 都会を中心に再度緊急事態宣言が発出され、県内でも特別警報が継続するなど、新型コロナウイルスの感染拡大が収まる気配はなく、本格的な回復にはまだ時間を要すると思われる(プラスチック製品製造業)。
			・ 緩やかではあるが、受注量は回復傾向にある(一般機械器具製造業)。
	雇用 関連		・ 新型コロナウイルスの影響があり、介護施設を中心に新規雇用が伸びない(求人情報誌製作会社)。
その他の特徴 コメント			： 家で過ごす時間が多いため、エアコンや空気清浄機の販売に期待したい(家電量販店)。 × : 依然として感染の拡大傾向が続いており、ワクチンの接種もまだ時間が掛かるとみられ、3か月先の状況も現状より更に厳しくなると考える(テーマパーク)。

(D I) 現状・先行き判断D I (北陸) の推移 (季節調整値)

